

研究・調査報告書

報告書番号	担当
246	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Histamine dihydrochloride protects against early alcohol-induced liver injury in a rat model ヒスタミン2塩酸塩はラットにおける初期のアルコール誘導性肝障害を保護する	
執筆者 Hornyak SC, Gehlsen KR, Haaparanta T	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Inflammation. 2003 ;27(5):317-27	
キーワード ヒスタミン、ヒスタミン type2 レセプター、肝障害	
要旨 <p>クッパー細胞の NADPH oxidase により生成される活性酸素種や白血球の浸潤はアルコール誘導性肝炎発症において重要な役割を果たしている。ヒスタミンはヒスタミン type2 レセプターを介して活性酸素種の生成を抑制することから、実験的な肝炎モデルで初期のアルコール誘導性肝障害に対して、ヒスタミン2塩酸塩が保護作用を示す可能性があるとして研究が行われている。</p> <p>メスの Wistar ラットにエタノール (5 g/kg i.g.) を4週間、毎日投与し、コントロール群には同カロリーの高脂肪飼料を投与した。エタノールを投与した動物は血清中の alanine および aspartate transaminase レベルが上昇し、肝臓では脂肪変性、炎症、壊死が見られた。血清中の transaminase レベルや肝障害のスコアから、ヒスタミン2塩酸塩(0.5 or 5.0 mg/kg、1日2回)を処理することによって、肝障害が防がれていることが明らかとなった。ヒスタミン type2 レセプターの拮抗剤 ranitidine (10 mg/kg) がヒスタミン2塩酸塩のこの保護効果を妨害することから、ヒスタミン2塩酸塩の保護効果はヒスタミン type2 レセプターを主に介していることが示唆された。</p>	